

記 入 日 2018 年 1 月 15 日

1. 概 要

実践団体名	北海道釧路東高等学校 生徒会執行部		
連絡先	学校 0154-36-2750 携帯 090-3890-8100		
プランタイトル	地域の人と、いざという時に支えあえる関係づくり		
プランの対象者※1	小学生（低学年・高学年）、高校生、地域住民、防災関係者	対象とする災害種別※2	地震、津波、水害

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

近年本校で取り組んできた防災に関する取り組みを近隣の小中学生、地域住民や管内高校生などとの交流を通して、活動の輪を広げる。

HUG（避難所運営ゲーム）をより具体的なものとして、本校を舞台としたリアル HUG 実践の実現に向けて取り組む。

【プランの概要】

近年本校で取り組んできた防災に関する取り組みの中で、特に HUG（避難所運営ゲーム）の研修による地域住民・近隣小学生・管内高校生・防災関係者との交流によって輪を広げた。HUG を通して経験してきたことをもとにリアル HUG を行い、実際に避難所として本校が開設された場合を想定した、より具体的・実践的な防災訓練を行い、地域の人と、いざという時に支えあえる関係づくりを目指す。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

HUG を机上で経験したあとで、リアル HUG を行うことにより実際の避難所運営に向けてより具体的なイメージを持てる活動として効果が期待されると思います。

2. プランの年間活動記録 (2017 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	震災ボランティア 研修の計画		(3 月 26 日) 標津高校生徒会との実 践交流会 (HUG 研修)
5 月		震災ボランティア研修 に向けて準備	
6 月		震災ボランティア研修 に向けて準備	
7 月			26～29 日 震災ボランティア研修 (岩手県大槌町・宮古市田老地区)
8 月	震災ボランティア研修報 告準備 (町民文化フェ ス・避難訓練)		
9 月		震災ボランティア研修報 告準備 (町民文化フェス・避 難訓練)	
10 月	標津高校生徒会と の交流計画		28 日 釧路振興局の主催事業で発表 28～29 日 町民文化フェスティバルで発表 30 日 秋季避難訓練で研修発表
11 月	別保小学校放課後 教室の準備	標津高校生徒会との HUG 研修準備 生徒会サミットでの実 践発表準備	
12 月	リアル HUG 計画 学校間交流 (HUG 研 修) の計画	別保小学校放課後教室 の下見 (宝探しゲーム) リアル HUG 準備	2 日 標津高校生徒会との HUG 研修 12 日 生徒会サミットでの実践交流 13 日 学校評議員への実践発表 20 日 別保小放課後教室での講師
1 月		学校間交流 (HUG 研修) の準備 (3 月下旬実施)	20～21 日 リアル HUG 実施 28 日 別保地区住民向けの HUG 研修
2 月		振興局との避難所運営 訓練の準備 学校間交流 (HUG 研修) の準備 (3 月下旬実施)	
3 月			11 日 振興局との避難所運営訓練 25 日 学校間交流 (標津高校・釧路 工業高校の生徒会) HUG 研修

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 2】※3

タイトル	標津高校生徒会との実践交流会
実施月日（曜日）	2017年3月27日（月）
実施場所	北海道標津高等学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：梅津 大樹 他 所属・役職等：北海道釧路東高等学校生徒会・会長 他
所要時間または「コマ数×単位時間」	8：30～13：10
プログラムのカテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	HUG を用いて標津高校周辺の地理と特性を知り、避難所運営に向けて校舎施設の様子をともに学びあう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>8：30 実践発表及びミサンガプロジェクトの準備、会場設営</p> <p>9：00 交流会開始</p> <p>9：00 開式のことば</p> <p>9：05 基調講演「 防災に関する講演 」 標津町生活住民課 防災担当 係長 和田 直人氏</p> <p>9：40 各校の実践発表 標津高校におけるボランティア活動・生徒会総務部の活動 釧路東高校の取組</p> <p>10：20 休憩</p> <p>10：30 避難所運営ゲーム（HUG）体験</p> <p>12：00 講評（標津町生活住民課防災担当係長 和田 直人氏）</p> <p>12：15 ミサンガプロジェクト・ボランティア等交流 生徒会活動に関わる意見交流（今後の活動に向けて）</p> <p>13：10 終了</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	PP による発表スライド HUG 研修用のキット（HUG カード、平面図、条件シート） 付箋紙 刺しゅう糸（ミサンガプロジェクト用）
参加人数	20 名
経費の総額・内訳概要	移動交通費 3150 円×8 名×2（路線バス往復） 50400 円 宿泊費 7300 円×8 名 58400 円
成果と課題	<p>【成果】</p> <p>HUG を通して、標津町の地理的特徴を知り、標津高校生徒会との交流をする中で互いに防災に向けての意識を高めることができた</p> <p>【課題】</p> <p>HUG だけでは、臨場感に欠ける。また、繰り返し行うことによりマンネリ感が出てしまうため、新鮮な気持ちで実践するための仕掛けが必要</p>
成果物	

- ※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
- ※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)
- ※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 13 】※3

タイトル	リアル HUG 研修
実施月日（曜日）	1月20日（土）～21日（日）
実施場所	北海道釧路東高等学校体育館・格技場および教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：有田怜人 所属・役職等：北海道釧路東高等学校生徒会 会長
所要時間または「コマ数×単位時間」	20日18:00～21日8:00（予定）
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	災害を疑似体験
達成目標	HUG で培ってきた経験を活かして、避難所生活の疑似体験をする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時を想定して、夜の体育館または教室で過ごす ・災害時の非常食を食べて一夜を過ごす ・ダンボールベッドやアルミシートなどを使って寝ることを体験する ・明かりのない校舎内を探索することの危険性、採光の場所や光度について実験する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	役場より貸与 ダンボールベッド・非常食（ごはん（アルファ米）・豚汁） 各自で準備 アルミシート・カセットコンロ・懐中電灯・ガスボンベ式ストーブ
参加人数	生徒5名・教員2名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 生徒自身が一夜を過ごす中で、ダンボールベッドでは熟睡できないなど、もし避難所となったときには一晩でも長く感じるということを経験し、より具体的なイメージを持って HUG に臨むことができた機会となった。 【課題】 地域の人たちを巻き込んだリアル HUG を行うためには、受け入れ体制をよく考えて計画しなければならない。冬に実践することを目標としたいが、寒さとの兼ね合いがあるため、まずは夏季に実施するという方向で考え、ひとつずつ課題を明らかにしていきたい。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： _____】 ※3

タイトル	
実施月日（曜日）	
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	
活動目的※5	
達成目標	
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 【課題】
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>HUG の実践を通して、浮かんできた大きな疑問が、実際はカードを並べるだけではもし災害発生時に運営する上で難しいだろう。また、何度も繰り返していると、先のストーリーが見えてしまい、結論ありきな実践になってしまふ。</p> <p>まずは、本校が避難所になったときに必要物資がどこにあるのか、本校が避難所として耐えうる設備を有しているのか、このことを知らなければならない。</p> <p>できれば、地域住民にも参加してもらい、大きな規模での避難所体験をしていきたい。</p> <p>そう考え、リアル HUG の企画立案をしていた。</p> <p>色々な先生方への相談、中間報告会での他団体の実践事例などを参考に準備を進めた。</p> <p>しかし、時期的なものや準備可能期間の都合などがあり、本校生徒会執行部だけでもまずは体験することとなったが、施設のことを知り過酷な冬の避難所生活疑似体験をすることで HUG をより具体性のあるものとするだろうと計画を進めた。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>まず、一番に苦勞したのは東高校の校舎を使用することについて、どのように先生方の理解を得れば良いか。本当は近隣町内会にも呼びかけて地域住民の方々にも参加してもらいたいと考えていたが、寒い冬に環境もあまり良くない中で行うと安全面で心配である。実践するならば、夏場の方が良いという話があったため、地域住民に呼びかけることは断念した。</p> <p>しかし、夏場での実施に向けて、今からできることはないか、と考えて今回のリアル HUG を生徒会執行部の生徒たち少人数単位から初めて、少しずつ規模を大きくしていくことに路線変更して、今回の実践につなげることができた。</p> <p>ダンボールベッドの組み立て体験などは以前学校祭で防災ブースを設けたりして、経験したこともあったが実際に使ってみるとどのような使い心地なのか、サバイバルシートもどのくらいの防寒効果があるのか、まったくわからないことだったので、経験できる機会ができてよかったと考えている。</p>
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	北海道標津高等学校 釧路町立別保小学校 北海道釧路東高等学校同窓会	HUG 研修・実践交流 宝探しゲーム 本校活動の広報 (FB 等)
保護者・ PTAの組織		
地域組織	釧路町社会福祉協議会 (一社) 日本建築学会北海道支部	HUG 研修講師 10 月 28 日のイベント共 催団体・実践紹介
国・地方公共団体・ 公共施設	北海道釧路総合振興局 釧路町役場総務課 釧路町教育委員会	HUG 研修講師・実践発表 〃 別保小放課後教室依頼
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等		
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>今まで継続してきたボランティア活動や防災に関する取り組み、この1年間も引き続き実践した。</p> <p>その中でも HUG についての取り組みに特化した活動をすることができたおかげで、リアル HUG の計画、実施にたどり着くことができ生徒会執行部としても防災に向けての意識が大きく変わったと実感している。</p> <p>リアル HUG 自体もこれから改善して、近い将来起こるといわれている大地震により引き起こされるだろう災害に向けての心構え、準備につながっている。</p> <p>近隣の高校生との交流も行うことができたので、地域とのつながりを今まで以上に広げることができたと感じている。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>地域住民を巻き込んだリアル HUG、計画をする上で非常に多くの問題を抱えていることを実感した。</p> <p>防災に向けての取り組みの一環として、リアル HUG の地域住民を巻き込んだ実施にたどりつくことで、テーマとしている「地域の人と、いざという時に支えあえる関係づくり」に一歩ずつ近づくことができるのではないかと感じている。</p> <p>釧路東高校から 100km ほど離れた標津高校へ行くことができたのは、この防災教育チャレンジプランに応募することも大きなきっかけとなったので、とても良い機会とすることができたと感じている。</p> <p>中間報告会での実践事例を見聞きできたこと、これはとても大きな財産だったと感じている。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>震災ボランティア研修をはじめとする本校独自で行っているボランティア活動や防災に関する取り組みは継続していく。</p> <p>特に当初の予定通りに実施することのできなかつたリアル HUG の実施、これを実現するために様々な機関との連携を密にとっていきたいと考えている。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

(自由記述: 1/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 2/3)

A large empty rectangular box with a blue border, intended for free text entry.

(自由記述: 3/3)